

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 9月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	2870200793		
法人名	有限会社 トールース		
事業所名	グループホーム 六甲		
所在地	神戸市灘区篠原伯母野山町3-18-11 (電話) 078-861-2941		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成19年7月3日	評価確定日	平成19年9月26日

【情報提供票より】(平成19年6月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5人, 非常勤 6人, 常勤換算	6.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 ~ 85,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷金	有(円) <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
保証金の有無(入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 (500,000円) <input type="radio"/> 無	有りの場合償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 / 無 <input type="radio"/>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,330 円		

(4) 利用者の概要(平成19年6月23日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	80 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹内内科、竹内歯科
---------	-----------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは六甲山への登山口より少し上った所にあり、近くに大学、高校、中学等がある文教地区にある。周りは緑も多く豊かな自然環境にあり、利用者の居室からは眼下に神戸の街並み、港が開けて見える。ホーム前の坂道の傾斜はかなり厳しいが、利用者の多くが往復800Mある地域のお地藏さんまで散歩に出かけ、ここでの生活が下肢筋力の低下を防ぎ自然とリハビリになっている。また、地域とのつながりを積極的に積み重ねており、自治会・老人会に加入し利用者が職員と共に道路や公園の清掃活動に参加したり、酒饅頭や雑巾を作って近くの住民や中学校へ配り、お返しに中学生がホームの畑作りを手伝いに訪問するなど地域との交流をホーム側から積極的に働きかけ情報を発信している。また、家族との交流も大切にしており月1回、家族会を開催し、さまざまな情報交換を行っている。運営者は、日々のケアが利用者本意であるか絶えずふりかえりながら、ホームの運営に情熱を注いでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	前回の第三者評価で救急法の定期的な訓練の実施と介護計画への家族への同意について、口頭のみでなく計画書をもとに同意を得ることがあげられた。救急法については消防署や看護師の協力を得て、介護計画についてはセンター方式のアセスメントを試験的導入により、また運営推進会議でも意見をもらいながら更なる改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	今回の自己評価は全ての職員が各自行い持ち寄ってまとめた。運営者(管理者)と職員が評価内容について話し合う中で認識・理解にズレが有る事がわかりこれを埋める為に十分な話し合いを行った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	昨年8月に第1回目を開催後、概ね2ヶ月に1回開催している。前回の第三者評価の結果やプライバシーの確保、地域とのつながり等について話し合い、ホームの運営に活かしている。つながりをより密にするため地域住民にも参加を呼びかける「ほほえみの集い」の開催等についても話している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	毎月利用者の状況を家族に送付している。日頃の家族とのかわりの中で苦情を言ってもらいやすい心がけており、重要事項説明書への苦情相談窓口の明記、意見箱の設置、家族会での個別面談等々、特に家族会では苦情をより気軽に言ってもらえる機会作りに工夫している。苦情が出された場合は、運営者・職員で、苦情の内容により医師にも意見を聞いて対応を話し合い家族に説明している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	自治会、老人会に加入し、行事や地区の清掃活動には利用者は職員と共に参加している。酒饅頭や雑巾を作って近所や中学校に持参し、お礼に中学生がホームの畑作りを手伝ってくれるなど、地域で必要とされる活動にも参加し、また、ホームが持っている認知症ケアに関する知識・技術等を地域の人にも還元するために「ほほえみの集い」を開催するなど、地域とのつながりを持つよう積極的に取り組んでいる。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者は、地域の人に理解されなければ地域の中で暮らし続けることはできないという信念の下「家庭的な環境の中で残存能力を維持し、利用者本位の暮らしを地域の人びとと支えながら続ける」という理念を開設当初からホーム独自の理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアや職員会議の中で、理念の中身について話し合い、職員間で認識・理解についてズレが生じた時はお互いに意見を出し合い理念を共有している。また、利用者と接するとき「なぜそうされたか」を常にふりかえり、理念を具現化していくために「一人ひとりをよく知る」という事を意識して理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会に加入し、行事や地区の清掃活動には利用者は職員と共に参加している。酒饅頭や雑巾を作って近所や中学校に持参し、お礼に中学生がホームの畑作りを手伝ってくれるなど、地域で必要とされる活動にも参加し、また、ホームが持っている認知症ケアに関する知識・技術等を地域の人にも還元するために「ほほえみの集い」を開催するなど、地域とのつながりを持つよう積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は全ての職員が各自行い持ち寄ってまとめた。運営者（管理者）と職員が評価内容について話し合う中で認識・理解にズレが有る事がわかりこれを埋める為に十分な話し合いを行った。また、前回の第三者評価で課題とされた点について、運営推進会議でも意見をもらいながら改善に向け取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、民生委員、地域住民代表、地域包括支援センター職員等にメンバーになってもらい、昨年8月より概ね2ヶ月に1回開催している。会議では、第三者評価についてや、それぞれの立場での意見をもらい、そこで出された意見は職員会議でも取り上げサービスの向上に活かしている。		
6	9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月発行しているホーム新聞を、介護保険課へ持参（地域包括支援センターへは郵送）したり、その他の用件でも直接出向いたりしている。昨年は市が行う認知症に関わる研修会の講師を運営者が努めたり、市の職員がホームの見学に訪れるなど相互に連携を保っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1回開かれる家族会後の個別面談や、家族のホーム訪問時、電話等で家族が知りたいことを把握し、その都度報告したり、ホーム新聞や介護記録のコピーを毎月家族へ送り、暮らしぶり、健康状態、職員の異動等について報告している。また、買い物等の立替費用については毎月領収書を付けて、かかった費用を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会では、気心が知れた職員がアプローチしたり、家族同士で話しやすいように席の配置を工夫したり、家族がフリーになれる時間を設けるなど苦情等を気軽に言ってもらえる機会作りを心がけている。苦情があった場合は本人・家族と職員等関係者で、内容によっては医師等にも依頼して話し合い解決に向けて取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームでは利用者ごとの担当職員は決めていない。職員のスキルアップは結果的には利用者のためになるので、法人組織内で最小限の異動を行っている。しかし、異動する場合はしばらく新旧の職場をかけ持ちし、また異動後もホームでの行事に参加して利用者とのつながりを継続する機会を作っている。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回の認知症ケア学会には、職員が輪番制で参加し、その他法人内外の研修には運営者がその人に対する必要性を判断するが、職員の自主性を重んじて段階に応じた研修の機会を設けている。その時の研修参加は公休扱いにしている。また、働きながら学ぶために、近隣の同業者に来てもらって現場で助言をしてもらったりしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県域の連絡会に加入し、市内や阪神地区の認知症ケアでお互いに研鑽できる事業所と勉強会や情報交換を行っている。また、相互に事業所の見学を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	スムーズに本格的利用ができるように、見学、デイサービスの利用、また居室が空いている時には体験宿泊をしてもらうなど徐々に馴染んでもらい、安心して納得の上で入居してもらるようにしている。このようなプロセスを経ない形での急な利用は、利用者本位というホームの理念上からも受け入れていない。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	「共に過ごし学び支えあう」関係を作っていくことの重要性を常日頃、職員間で話し合っている。また、このような関係を築くために、現存能力、できること、特にその人の得意分野、その人が習慣としていることを職員が奪わないように気をつけながら共に生活している。ときには、子育て等の悩みを経験者である利用者に相談している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いを、利用者同士や利用者と職員の間で何気ない会話や様子に気を配り、その中から知るように努めている。しかし、一時の言葉や、見た目だけで決め付けずに、職員間で意見を出し合って利用者の立場になって、思いや意向を把握するように努めている。また、意思疎通が困難な利用者では、家族から今までの生活歴や習慣を教えてもらい本人の思いや意向を把握している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一人ひとりの年代別の生活状況や生活習慣等、できるだけ多くの情報を把握し、日々のかかわりの中で利用者、家族の意向を聞き取り、必要な人にはかかりつけ医の意見（服薬管理等）も聞いた上でスタッフで話し合い個別の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>概ね2ヶ月に1回見直しを行い、介護計画の書き換えを行っている。しかし、利用者の状況は刻々変化しているため必要な人には実情に即して1日単位で見直している。パソコンシステムの中の「掲示板」等で申し送りし、見直した計画の内容を職員間で共有している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ホームでデイサービス事業を行っており、デイの利用者がいる時にはデイサービスの行事やもちつき等のレクリエーションにホームの利用者も一緒に行なう等、必要な時に必要なサービスを臨機応変に組み、馴染みの職員が支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の意向を踏まえてかかりつけ医を決めており、入居前の馴染みの医師が入居後もかかりつけ医となっている人もいる。また、かかりつけ薬局もあり、医師や薬剤師といつでも相談できる関係を築いている。また職員による通院介助を行なった場合は、受診後に利用者の状態について家族へ報告を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では終末期までの対応は行なっていない。重度化した場合や終末期について、利用者本人や家族の意向を入居時に確認すると共に、ホームとして対応できる内容を説明している。本人の状態が変化した時は、かかりつけ医の意見を聞き対応方針をチームで話し合っている。利用者や家族の意向を大切にしながら、医療依存度やホームでケアできる内容を勘案して話し合い決めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ、風呂の使用時に、意思表示ができる人は本人に任せているが、できない人には「使っています」の表示板を使ってもらい、職員や他の利用者がプライバシーを損ねないよう工夫している。ホーム新聞等の写真や記録についても本人・家族の同意を得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や散歩の希望が多い時間帯には、職員の配置を厚くするなど一人ひとりの思いを大切にされた勤務体制を取っている。また、料理づくりや食事、後片付け等も時間を決めず利用者の意志、ペースを大切にしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きながら、旬のものや新鮮な食材の買い物、調理、食事、後片付けを時間を一方的には決めず、利用者と職員が一緒に行っている。利用者の状況に応じて調理方法を変えたり、嫌いなメニューのときは好みのものに変える等臨機応変に対応し、三食とも全ての職員が利用者と一緒に食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕食後に入浴を希望する人も多く、利用者が希望する曜日、時間また習慣に合わせて個別の入浴支援を行っている。また、あまり入浴をしたがらない方には、紙に入浴した日に付けて、利用者に見てもらおう等、声かけや対応の工夫を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族から利用者の生活歴や趣味等を聞き取ったり、日々の暮らしの中から一人ひとりの楽しみごとを把握している。掃除、洗濯物たたみ、畑作り、雑巾作り等の役割にもつなげ、利用者ができることを奪わないよう配慮しながら楽しく暮らしてもらおうよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や利用者の状態を考慮しながら、外出を楽しめるように支援している。近所のお地藏さんへのお参り、居室に飾る花を買いに花屋さんへ、手紙を出すための切手を買いに郵便局へ、以前住んでいたところのスーパーへ、また、以前関わっていたケアマネジャーに顔を見せに等等、一人ひとりのその日の希望に沿って馴染みの店や場所へ職員と一緒に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び殆どの職員は日中玄関に鍵をかけることにより利用者、家族、地域に与えるデメリットを理解しており、玄関には鍵をかけていない。利用者の外出気配をチャイムで察知した時は、さりげなく声かけをして職員と一緒に付き添って外出している。		今後、新任職員を含め全ての職員が鍵をかけることのデメリットの理解にズレが生じないように十分話し合うことが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震については防災マニュアルがあり、またホームのある地域は水害対策地域であるので、自治会の対応パンフレットが備えつけられている。また、非常用食料として冷凍ご飯、ピラフが備蓄されている。消火器の使い方を含め年1回避難誘導訓練が実施されている。		今後は、自治会との共同訓練や運営推進会議での協力呼びかけ等、更に地域の協力が得られるよう働きかけが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示や体重チェックで、必要と思われる利用者にはおおよその必要量と摂取量を把握し、おやつ等で補いつづけている。水分摂取については、10時、3時、入浴・外出後等にお茶の時間をとり、またお茶ゼリーなど好みのものを出すようにしている。		定期的に専門的な観点から、栄養バランスやカロリー、塩分等のチェックをしてもらうことが期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの建物は民家を改造して作られており、居間には暖炉、観葉植物、絵画等、また、玄関には季節の花が飾られている。お風呂は個浴用の浴槽で、台所も利用者が一緒に調理しやすいスペースがあり、ここから魚を焼く匂いが漂い、家庭的な雰囲気の中に生活感、季節感を出すよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンは居室に備え付けてあるが、それ以外は仏壇、亡配偶者の写真、ピアノ等利用者それぞれの馴染みのものが持ち込まれ、カーテンも好みのものをつけている。		

 は、重点項目。